

着任の御挨拶

シンガポール日本商工会議所 参与
EMBASSY OF JAPAN IN SINGAPORE
Minister
堀田 亨



このたび、在シンガポール日本大使館に公使として着任いたしました。よろしくお願い申し上げます。

こちらに着任してまだ1か月あまりしか経っておりませんが、大使館の仕事や日常生活の中で、日本の製品・サービス・文化が想像以上に高いプレゼンスを持っていることに日々驚いております。今やシンガポール国民にとって「日本コンテンツ」は、何か外国のものではなく、生活や経済・社会における当たり前の構成要素になっているといっても過言ではありません。ここに至る過程には、長年にわたりシンガポールでビジネスを展開されてきた日本企業の皆様のたゆみない努力があったことは間違いなく、あらためて敬意を表したいと思います。

私の出身は「製造業王国」の愛知県で、名だたる大企業の工場群に囲まれて育ちました。幼少期はもちろんそれらの各企業がいかに世界的に活躍しているのかまったく知りませんでした。長じて外務省の仕事をする事になり、そうした各企業がどのような世界的ビジネスを展開し、また素晴らしい技術を持っておられるかを知ることができました。そのようなビジネスや技術、ノウハウを日本としてのブランドにしていくことは、外交当局の重要な仕事だと思っております。JCCI会員各社様とも是非そうした関係を築いていきたいと考えております。

私は1996年に外務省に入省し、様々な分野の業務に携わってきましたが、近年は国際情勢分析関連の業務を長く担当してきました。その中で、いわゆる「地政学的競争の激化」に向き合い、様々な情報に接し、日本を取り巻く状況がどのように変わっていくのかを自分なりに考えてまいりましたが、やはり日本において「情報」に接しているだけでは実感できないことも多々あります。その点、シンガポールは、アジア太平洋地域のみならず世界の諸情勢に関する情報の集積・発信地点であると同時に、シンガポール国家自体が、急変する国際情勢の中で、いか

にその長所を活かし、生き残っていくか、強烈な危機感をもって取り組んでいる国でもあります。このたびシンガポールに外交官として駐在する機会を頂きましたことは、日本には見えてこない国際情勢の動きを肌で感じるとともに、先行き不透明な時代の中で日本がとるべき国家戦略を考える上でも、大変貴重な機会であると考えております。

外務省職員としての東南アジアとの関わりは、2005年から2007年にかけて、ASEAN関係の政策を担当する部局での勤務が唯一となります。その際は、東南アジア諸国がどのような戦略目的を持って国家を運営しているのか、またASEANという地域の集合体がどのような力学によって動いているのかについて、その一端を知ることができました。特に2005年には、東アジア首脳会議（EAS）が初めて開催され、ASEANを中心としつつ、どのような枠組みでどのような協力を進めていくことが、東アジア地域全体の安定と繁栄のために望ましいのか、関係国間で真剣な議論が展開される様をつぶさに見ることができました。そうした中で印象的であったのが、2007年の議長国であったシンガポールが、その年のテーマとして、「住みやすい都市」のスローガンの下に、経済・社会インフラのスマート化と気候変動対策を前面に打ち出してきたことでした。現在、まさにこうした点でシンガポールが世界の最先端を走っている姿を見るにつけ、この国の先見性に学べるところは大きいと考える次第です。

近年日本政府は、官民一体となった日本企業の海外活動支援を更にもう一段ギアアップしようと様々な取組を行っており、私ども在外公館はその最前線を担っております。是非皆様から、現場ビジネスの最新情報と問題意識を共有していただきながら、皆様の更なる御活躍、ひいては日本経済の成長のために尽力させていただきたく、御協力のほど改めてよろしくお願い申し上げます。